

編集委員 大槻 健郎, 刈部 博, 川村 昌司, 佐藤 博俊, 佐野 博高,
 田島 悠太, 山科 順裕, 山本 譲司, 小野由美子, 坂元健太郎,
 佐々木麻友, 高橋 拓也, 堀内 論, 今野 裕基, 若月 悠
 査読委員 遠藤 薫, 近田 祐介, 渋谷 里絵, 鈴木 範明, 中村 崇宣,
 八田 益充, 福田かおり, 藤原 幾磨, 山本 多恵

編集後記

仙台市立病院医学雑誌第44巻をお届けいたします。本巻では原著4編、症例報告6編、コメディカルレポート3編の計13編を掲載し、昨年と比較するとかなりの大容量となりました。特にコメディカルレポートは、質・量ともにここ数年の中でもレベルの高い力作ぞろいとなったように思います。本誌を刊行できる環境を提供していただいた皆様に感謝いたしますとともに、学術活動をたゆまず続けておられる先生方にあらためて敬意を表したいと存じます。

それにしても、何故、何のために我々は研究し論文を書くのでしょうか。学位を取得するため？出世するため？研究資金獲得のため？学会賞などの賞を獲得するため？…いずれも一面的には論文を書く理由にはなりそうですが、真髄ではなさそうです。過日、2023年度のノーベル医学生理学賞を受賞したカタリン・カリコ教授を特集したテレビ番組を見ました。新型コロナワクチンで一躍有名になった mRNA ワクチンを開発したことが、ノーベル賞受賞の理由となった主な業績です。その番組の中で彼女が、「ノーベル医学生理学賞を受賞し称賛を受けることは、それほど重要ではない。うれしいのは、私の研究によって誰かが救われたということだ」というようなことを述べていましたが、おそらくこれこそが論文を書く真髄なのだろうと思います。

自分の経験や研究で得た知見を論文という形にして残す。誰かを救うために、いつか誰かの何かの役に立つために。

(刈部 博)

仙台市立病院医学雑誌

Vol. 44 2024

令和7年2月28日 発行

発行所 仙台市立病院

仙台市太白区あすと長町 1-1-1

TEL 022 (308) 7111

発行者 奥田光崇

笹氣出版印刷株式会社 組版